

令和7年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

今年(2025年1月～12月)は長崎半島に位置する「川原大池一帯」で、水生動物と昆虫類等の生物相調査を田中委員と共に行いました。また、日吉自然の家一帯では本年度5月より年間を通じた調査を、さらに市内河川の調査についても適宜実施しています。川原大池一帯および日吉自然の家一帯の報告書については、希少な種の保護の観点から、非公開としています。

○川原大池一帯

川原大池は、長崎半島中央南部に位置し、広さ13ha、周囲約1.9km、最大水深9mの長崎県最大の自然湖とされています。以前は、短い水路で海とつながっており、満潮時にはこの水路を通じて海水が流入し汽水湖となっていたようです。1974年の川原大池淡水湖化計画により、ほぼ淡水となったようです。池の周辺は、海側では公園化して、キャンプ場や遊歩道が整備され、市民の憩いの場として利用されています。北側や東部では、照葉樹林となっており、冬季に飛来するオシドリ等の休息場となるなど、開放水面を含め鳥類がよく観察される場所となっています。調査は、水生動物類ではタモ網採集、目視確認のほか、灯火採集も実施しています。陸上昆虫類では、ビーティング採集、スウィーピング採集、灯火採集、FIT採集、スプレーイング採集、目視確認などを実施し、その他の動物類では自動撮影装置、バットディテクター、フィールドサインによる確認も合わせて実施しています。調査場所は大池周辺部や海岸部、流入する池田川も含めています。調査日と調査方法は表1のとおりです。



図 川原大池および周辺部の状況

表 1 調査日と調査方法

No.	調査年月日	調査者	陸上昆虫類							共通 灯火	水生動物		両生・爬虫・哺乳類ほか			
			陸上 ルビキシング	ビ・ティグ	ス・ビ・グ	FIT	ス・レ・グ	ジ・ティグ	朽木割り		水辺 ルビキシング	妊網	自動撮影	目撃	フィールド サイン	バット ディテクター
踏査	2024.12.21	FG	○								○			○	○	
1	2025.1.4	TK,FG	○	○				○	○		○	○			○	
2	2025.1.11	FG	○			設置				○			設置2			
3	2025.1.13	FG	○	○							○	○			○	
4	2025.1.25	FG	○	○		回収・設置							回収2		○	
5	2025.2.8-9	FG	○	○		回収・設置	○		○		○		設置2		○	
6	2025.2.15	FG	○	○							○	○			○	
7	2025.2.22,24	FG	○	○		回収・設置			○	○	○	○	回収2	○	○	
8	2025.2.22	TK	○	○	○				○							
9	2025.2.27	TK	○	○	○				○							
10	2025.2.28,3.1	FG	○							○	○			○	○	
11	2025.3.9	FG	○	○		回収・設置					○	○	設置2	○	○	
12	2025.3.22	TK	○	○	○				○					○		
13	2025.3.22,23	FG	○	○		回収・設置				○	○	○	回収2	○	○	
14	2025.3.28	TK	○	○	○						○			○		
15	2025.4.6	FG	○	○		回収・設置					○			○	○	
16	2025.4.12	FG	○	○							○	○			○	
17	2025.4.18	TK,FG	○	○	○					○	○			○	○	
18	2025.4.21	TK	○	○	○											
19	2025.4.26	FG	○	○	○	回収・設置				○	○			○	○	○
20	2025.5.3	FG	○								○			○	○	
21	2025.5.4	FG	○	○							○	○		○	○	
22	2025.5.8	TK	○	○	○											
23	2025.5.11	FG	○	○		回収・設置					○		設置1	○	○	
24	2025.5.17	FG								○						
25	2025.5.19	TK	○	○	○						○			○	○	○
26	2025.5.30	FG	○	○						○	○			○	○	○
27	2025.6.1	TK,FG				回収・設置					○		回収1	○	○	
28	2025.6.2	TK	○	○	○											
29	2025.6.7	FG	○	○							○	○		○	○	
30	2025.6.21	TK,FG	○	○						○						○
31	2025.6.29	FG	○	○		回収					○	○		○	○	
32	2025.7.6	FG	○								○	○		○		
33	2025.7.7	TK	○	○	○											
34	2025.7.14	FG	○	○							○					
35	2025.7.20	FG	○	○												
36	2025.7.26	TK	○	○	○											
37	2025.8.4	TK	○	○	○											
38	2025.8.15,16	FG	○	○						○	○			○	○	○
39	2025.8.20	TK	○	○	○											
40	2025.9.6	FG	○	○							○				○	
41	2025.9.12	TK	○	○	○											
42	2025.9.19	TK	○	○	○					○						
43	2025.9.27	FG	○								○	○				
44	2025.10.1	FG	○	○							○			○	○	
45	2025.10.3	TK	○	○	○											
46	2025.10.17	TK	○	○	○									○		
47	2025.10.19	FG	○	○							○	○		○	○	
48	2025.11.1	TK	○	○	○											
49	2025.11.2	FG									○					
50	2025.11.15	TK	○	○	○											
51	2025.11.24	FG	○	○							○					
52	2025.12.5	TK	○	○	○									○		
53	2025.12.6	FG	○								○					
54	2025.12.19	TK	○	○	○											

<調査者略記> FG：深川元太郎、TK：田中 清

本調査の確認種数は、既往知見、未査定種を含め 27 綱 105 目 492 科 1,983 種でした。主な分類群をみると、貝類が 461 種（全種数の約 23.2%、以下同）、十脚甲殻類（エビ・カニ類）50 種（約 2.5%）、昆虫類が 1,255 種（約 63.3%）、魚類が 34 種（約 1.7%）、両生類が 8 種（約 0.4%）、爬虫類が 10 種（約 0.5%）、鳥類が 82 種（約 4.1%）および哺乳類が 11 種（約 0.6%）となります。大部分を占める昆虫類をみると、トンボ目が 43 種（約 2.2%）、直翅類（ナナフシ目、カマキリ目、ゴキブリ目、シロアリ目、バッタ目）が 63 種（約 3.2%）、カメムシ目が 215 種（約 10.8%）、コウチュウ目が 532 種（約 26.8%）、ハチ目が 74 種（約 3.7%）、ハエ目が 53 種（約 2.7%）、チョウ目が 239 種（約 12.1%）となり、コウチュウ目、チョウ目およびカメ

ムシ目の順で占める割合が多い状況でした。また環境省、長崎県および長崎市のレッドデータリストに掲載されている種は、既往知見等を含め 107 種が確認されています。一方でウシガエル、モンクチビルテントウ、クスベニヒラタカスミカメなどの外来種も見つかっている状況です。

以下に確認した種の一部の画像を掲載します。



ツノメガニ



アカテガニ



ゴクラクハゼ



チチブ



ウキゴリ



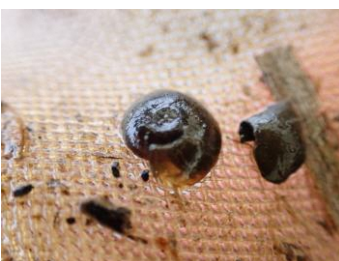
オジロサナエ幼虫



ヤマトヌマエビ



カスミサンショウウオ



クルマヒラマキガイ



ニホンヒキガエル幼生



トゲナシヌマエビ



コオニヤンマ幼虫



カワムツ



ヤマサナエ



ウシガエル



ミズカメムシ



カダヤシ



台湾ンウチワヤンマ



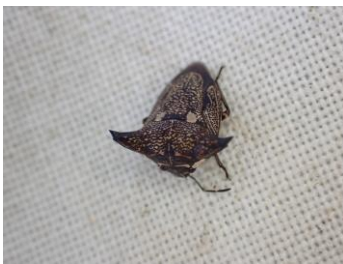
サツマゴキブリ



クビキリギス



スジハサミムシ



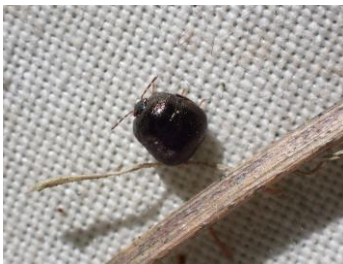
ウシカメムシ



コブウンカ



ミナミアオカメムシ



タデマルカメムシ



アミガサハゴロモ



ケシツブスナサビキコリ



ハスジオオキノコ



ナガサキツバキゴミムシ



アオグロヒラタゴミムシ



ヤエヤマニセツツマクソコガネ



マルヒメゴモクムシ



ミイデラゴミムシ



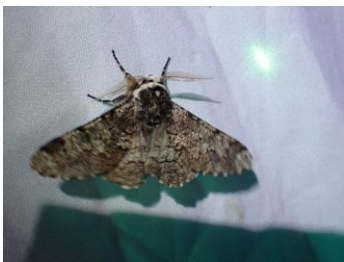
ニホンホビロモツキモドキ



ハイイロヤハズカミキリ



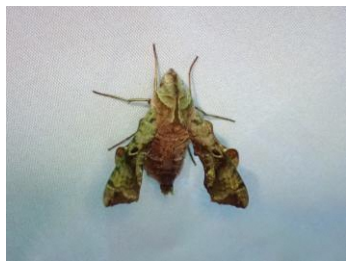
キボシツツハムシ



トビモンオオエダシャク



シロフフユエダシャク



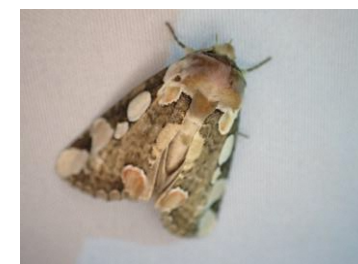
ホシヒメホウジャク



アカキリバ



アカエグリバ



カワムラトガリバ



トビイロリンガ



クロウスムラサキノメイガ



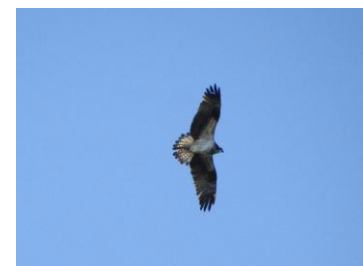
ヘリスジシャチホコ



ツノトンボ



タヌキ



ミサゴ

○日吉自然の家一帯

この施設は、長崎半島（野母半島）の根元付近の標高約 300mに位置し、飯香浦町の日吉地区を中心とし、環境教育の場として利用されています。周辺部は、クヌギなどの照葉樹林が広がり、間伐等により施設管理が適度に行われ、間伐材を林内に配置するなど、里山環境が良好に維持されている状況となっています。そのため、長崎市街地に近いにも関わらず、昆虫類ではチョウ類をはじめ、多くの種が生息しており、市内では珍しい種も少なくないようです。

調査は、陸上昆虫類を中心に実施したため、ビーティングや灯火採集が中心となっています。調査範囲は、施設周辺部を中心に行っていますが、令和 6 年度に実施した網場金比羅岳も近隣にあるため、調査結果にそれらも反映するように致しました。年調査日と調査方法は表 2 のとおりです。





図 日吉自然の家周辺部の状況

表 2 調査日と調査方法

No.	調査年月日	調査場所	調査者	陸上昆虫類					共通	水生動物			両生・爬虫・哺乳類			
				陸上 ルギンダ	ビ・ライダ	スイ・ビ・ダ	FIT	ス・レ・ダ		水辺 ルギンダ	タ・網	白布流し (フドシ流)	自動撮影	目撃	フィールド サイン	バット ディテクター
1	2024.3.30	金比羅岳	FG	○	○	○				○						
2	2024.4.13	金比羅岳	FG	○	○	○			○							
3	2024.4.27	金比羅岳	FG	○	○	○										
4	2024.4.28	金比羅岳	FG	○	○	○			○							
5	2024.5.4	金比羅岳	FG	○	○	○			○							
1	2025.5.31	日吉自然の家	FG	○	○	○			○					○	○	
2	2025.6.6	日吉自然の家	FG	○					○				設置1	○		
3	2025.6.14	日吉自然の家	FG	○					○							
4	2025.6.21	日吉自然の家	FG	○	○	○				○						
5	2025.7.5	日吉自然の家	FG	○	○		設置3	○	○	○			回収1・設置1	○		
6	2025.7.14	日吉自然の家	FG	○	○		回収・設置3									
7	2025.7.20	日吉自然の家	FG	○	○		回収・設置3		○							
8	2025.8.15.16	日吉自然の家	FG	○	○	○	回収3		○					○	○	○
9	2025.9.6	日吉自然の家	FG	○	○	○							回収1		○	
10	2025.9.23	日吉自然の家	FG	○	○			○					設置3		○	
11	2025.10.11	日吉自然の家	FG	○	○	○			○	○			回収3	○	○	○
12	2025.10.26	日吉自然の家	FG	○	○	○							設置2	○	○	
13	2025.11.8	日吉自然の家	FG	○	○								回収2		○	
14	2025.11.29	日吉自然の家	FG	○	○			○	○	○	○		設置3	○	○	
15	2025.12.13	日吉自然の家	FG	○	○			○	○				回収3		○	

<調査者略記> FG: 深川元太郎

本施設の調査は、2026 年 5 月まで継続して実施する予定にしていますが、12 月末時点での確認種は、既往知見(近接する甕岩、網場金比羅岳含む)、未査定種を含め 12 綱 46 目 258 科 1,372 種で、日吉自然の家のみでは 1,140 種でした。日吉自然の家の調査は主に昆虫類を中心に実施したため、確認種が 1,092 種(全確認種の 95.8%)と大部分を占めています。主な分類群をみると、トンボ目が 13 種、直翅類(ハサミムシ目、ナナフシ目、カマキリ目、ゴキブリ目、シロアリ目、バッタ目)が 53 種、カメムシ目が 180 種、コウチュウ目が 448 種、チョウ目が 298 種となり、コウチュウ目、チョウ目およびカメムシ目が占める割合が多い状況でした。また環境省、長崎県および長崎市のレッドデータリストに掲載されている種は、既往知見等も含め 27 種が見つっています。一方でラミーカミキリ、ヒラタトガリカメムシなどの外来種も見つっている状況です。このほか、敷地内に設置した自動撮影装置にはキツネ、タヌキ、テンなども写っており、なかでもキツネは、市内では少ない種のように、市街地に近い場所で生息しているのは驚きでした。

以下に確認した種の一部の画像を掲載します。



ケラ



タイワントビナナフシ



ヒナカマキリ



ヒラタガリカメムシ



アヤヘリハネナガウンカ



ヒメコバナナガカメムシ



クビアカトラカミキリ



キンイロエグリタマムシ



ムネアカセンチコガネ



タテジマカミキリ



ナガフトヒゲナガゾウムシ



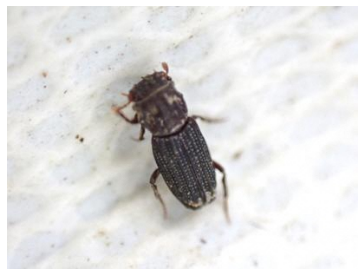
ヒメボタル



ノコギリクワガタ



ヒトツメアトキリゴミムシ



ヒメカクマグソコガネ



ミヤマクワガタ



カブトムシ



アシナガオニゾウムシ



ヤマトタマムシ



ムラサキツバメ



メスグロヒョウモン



アサギマダラ



オオハナアブ



フタスジモンカゲロウ



キツネ



タヌキ



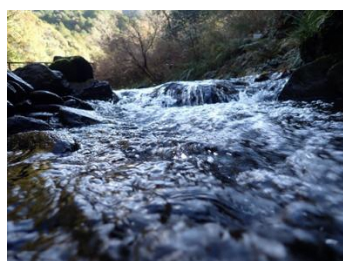
アカヤマドリ

○市内河川調査

今回の河川調査については、2024 年までに調査を実施した中で、調査が希薄な地点や以前の調査年月より間隔が開いている地点を中心に実施致しています。また、次回のレッドデータリスト改訂に向けて、掲載種を中心とした生息状況の把握を行っています。今年度だけでは全て把握することができていませんので、次年度以降も継続的に調査を続けていく予定です。なお、今年度からは種保護の観点から調査場所をぼかした表現にしています。

＜北部河川１＞ 調査日：2025年1月1日 確認種：地点A 5種、地点B 6種（令和6年度分）

タモ網を用いた調査を実施しています。地点Aは、近年あまり手入れがほとんどされていない人工池で、雑草類が繁茂した状況でした。冬季という事もあり、マツモムシやマメシジミの一種など少数種が確認されています。地点Bでは、既知のレッドリスト掲載魚類の生息調査を実施し、早瀬ではレッドリスト掲載魚種が、平瀬や緩流部では他の魚種が確認されています。この他、川岸でタヌキの死体を確認できています。



地点B



シマヨシノボリ



タヌキ死体

＜東部河川１＞ 調査日：2025年1月3日 確認種：17種（令和6年度分）

中流部では、シマヨシノボリ、カワムツ、ゲンジボタル幼虫がよく確認されたほか、オイカワやヘビトンボ幼虫、オナガサナエ幼虫なども確認されています。オナガサナエは、市内ではやや局所的のようです。上流部は、カワムツ、シマヨシノボリ、オイカワなどが確認されましたが、中流部よりも種類数が少ない状況でした。



中流部



ゲンジボタル幼虫



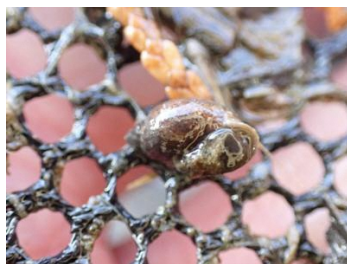
タカハヤ

＜北部河川２＞ 調査日：2025年2月11日 確認種：19種（令和6年度分）

ミゾレヌマエビなどの回遊性の種も確認されましたが、個体数は少なく、ほとんどが純淡水性の種でした。汽水域上限に設置されている堰が、回遊性の種の遡上阻害要因となっているようです。また、河床浚渫工事が行われた形跡があり、以前より生物相が貧弱な状況となっているようです。



調査場所



サカマキガイ



ドンコ

＜北部河川3＞ 調査日：2025年2月11日 確認種：16種（令和6年度分）

本地点は、三面コンクリートの水路で、水深もほとんど無い状況となっています。確認種の多くは、水路が合流する集水桝状となった場所で見つかり、出現種も少ない状況でした。ミナミメダカやニホンウナギといった絶滅危惧種も見つかりました。



調査場所



ミナミメダカ



アカミミガメ

＜西部河川1＞ 調査日：2025年3月16日 確認種：14種（令和6年度分）

調査をした貯水池は、現在使用されていないため貯水されておらず、湿地状となっています。ここでは両生類の産卵場となっており、特に市内でも有数のカスミサンショウウオの産卵場となっています。しかし、2014年は100卵塊以上を確認できていましたが、今年は20卵塊を超える程度で、1/5程度に減少していました。年や時期によって変動があると思われますが、この一帯で個体数が減少している可能性があります。水生昆虫類は、早春という事もあり、まだ活性が低いようであまり確認できませんでした。



調査場所



カスミサンショウウオ



マダラゴブリ幼虫

＜西部河川 2＞ 調査日：2025 年 3 月 23 日、確認種：16 種（令和 6 年度分）

中流部に広がる水田の一部は放棄されていて、湿地状となっている場所があり、止水性のフナ属、アカハライモリ、ミズムシなどが生息していました。河川ではイシマキガイが多産しており、緩流部ではカワムツも少なくないようです。小さな支流部でタゴガエルの鳴声が確認できています。



調査場所



クロヨシノボリ



カワムツ

＜北部湿地 1＞ 調査日：2025 年 3 月 29 日 確認種：27 種（令和 6 年度分）

調査日：2025 年 4 月 29 日 確認種：61 種

水際部にはニホンヒキガエルの幼生が多産しており、本場所が多個体の産卵場所となっているようです。市内では高標高に位置していますが、水生昆虫類の一部も活動を開始している事が確認できています。水生昆虫以外の昆虫類も、湿地や水辺を好む種で構成されていました。また、4 月 29 日にはカツラネクイハムシやモンシロミズギワカメムシが確認できています。



調査場所



マツモムシ



ドンコ



カツラネクイハムシ生息環境



カツラネクイハムシ



モンシロミズギワカメムシ

＜北部湿地 2＞ 調査日：2025 年 3 月 29 日 確認種：39 種（令和 6 年度分）

調査日：2025 年 4 月 29 日 確認種：66 種

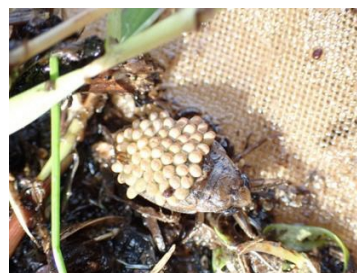
シュレーゲルアオガエルの多くの鳴声が聞こえ、ヒキガエルの幼生が多産している状況でした。湿地状となっている本場所では、スジヒラタガムシやコガシラミズムシを中心とした水生昆虫類や、ヒラマキモドキやサカマキガイなどの貝類といった、止水性を好む種が確認されています。3 月 29 日には 1 個体のみですがコオイムシがすでに卵を背負っており、産卵が始まっているようでした。また、4 月 29 日にはワルトンサルゾウムシなども再確認できています。



調査場所



コガシラミズムシ



コオイムシ

＜南部湿地 1＞ 調査日：2025 年 5 月 10 日 確認種：38 種

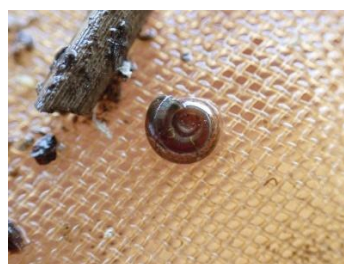
以前は浄水施設があった場所ですが、現在は廃止されたことに伴い、管理があまりされていない状況となっています。それに加え、イノシシの踏圧や土耕跡などのためか、やや荒れた状況となっていました。キベリクロヒメゲンゴロウなど希少な種が確認されましたが、確認できなかった種もあり、今後の動向を見ていく必要があるようです。



調査場所



キベリクロヒメゲンゴロウ



ヒラマキガイモドキ

＜東部河川 2＞ 調査日：2025 年 7 月 26 日 確認種：15 種

これまであまり調査されていなかった上流部に入り、魚類やエビ・カニ類を中心に調査を行いました。魚類ではカワムツやシマヨシノボリ、エビ・カニ類ではヤマトヌマエビやトゲナシヌマエビが多く見つかっています。このほか、コヤマトンボやコオニヤンマなどのヤゴも確認できています。



調査場所



ヤマトヌマエビ



コヤマトンボ（ヤゴ）

＜南部河川 1＞ 調査日：2025 年 8 月 31 日 確認種：105 種

この川は小規模ですが、川周辺にダンチクや竹類が生育しているため、移動に時間を要するところです。今回、約 20 年ぶりに調査を実施しています。河口周辺部は砂礫質となっておりハマゴウ群落がみられます。打上貝は岩礁部に生育するものが多い状況でした。中流部付近で 70cm 程のオオウナギを捕獲しましたが、撮影前に取り逃がしてしまい、残念ながら画像がありません。



調査場所



トゲナシヌマエビ



カニモリガイ(死殻)

＜北部湿地 3＞ 調査日：2025 年 10 月 5 日 確認種：28 種

主にタモ網を用い調査を実施しました。湿地内を流れる水路ではコイやカワムツといった魚類やトゲナシヌマエビなどの十脚甲殻類を確認できています。止水域では、アメンボやベニトンボなどの水生昆虫類を確認することができます。年々、外来種によって在来種の生息環境が悪化しているようです。

＜北部河川 4＞ 調査日：2025 年 10 月 5 日 確認種：16 種

汽水域で、主に魚類を対象とした調査を実施しました。ゴクラクハゼとミナミテナガエビが各所で見られ、個体数も多いようです。また、モクズガニも多く、上流側に生息していた個体が繁殖のために川を下ってきているようでした。以前確認していたチチブモドキは、今回確認できていません。



調査場所



ニホンウナギ



ヒナハゼ

＜南部河川２＞ 調査日：2025 年 10 月 12 日 確認種：49 種

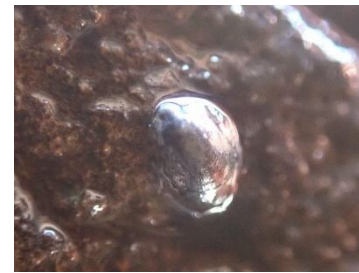
汽水域から下流域で、主に魚類と十脚甲殻類を対象とした調査を実施しています。汽水域では、大型のスズキやクロダイのほか、クロホシヤハズハゼといった南方系の種も確認できています。下流域ではニホンウナギが多く、70cm 程の大型の個体も 2 個体確認しています。また、40cm 程のオオウナギの小型個体も確認することができています。最近、市内の河川ではオオウナギを見かける機会が増えているようです。



調査場所



オオウナギ



フネアマガイ

＜南部河川３＞ 調査日：2025 年 10 月 19 日 確認種 13 種

下流部で淡水魚類と十脚甲殻類を中心とした調査を実施しています。魚類ではカワムツが多く、オイカワも少数確認できています。なお、オイカワは本河川では国内外来種と考えられます。十脚甲殻類では、ミゾレヌマエビやミナミテナガエビが多産していました。また、モクズガニが産卵のため、川を下っている姿を複数個体確認できています。



調査場所



ミゾレヌマエビ



ヒメヌマエビ

＜北部河川５＞ 調査日：2025年11月25日 確認種：14種

希少種の貝の生息地であったため、再確認のため現地を訪れました。今回、残念ながら確認できませんでした。生息場所の隣接する漁港が、5年程前に石積み護岸からコンクリートへと敷設されたり、周囲がイノシシの土耕によって荒廃するなど、生息環境が悪化している状況となっています。季節的に確認できなかった可能性もあるため、今後時期をずらして再度調査を実施する予定です。



フトヘナタリ

＜北部河川６＞ 調査日：2025年11月30日 確認種：48種

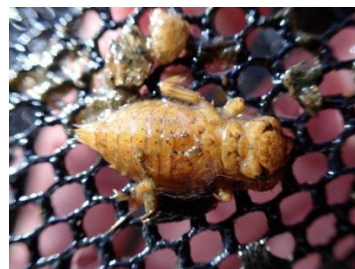
純淡水域である国道上流側で、タモ網を用いて調査を実施しました。魚類ではカワムツ、シマヨシノボリなど、既知の種を確認できましたが、過去に記録のあるドジョウやドンコを今回確認できていません。支流を含め、改めて調査が必要と思われます。また、流水性のトンボ類幼虫を多数確認できましたが、中でもコヤマトンボは調査範囲各所で見つかり、確認した個体数も少ない状況でした。



調査場所



ゼンジボタル幼虫



オナガサナエ幼虫

＜北部河川７＞ 調査日：2025年12月20日 確認種：21種

旧浄水場の下流側で、タモ網を用いて調査を実施しました。シマヨシノボリ、カワムツ、ミズレヌマエビなどが多く確認されましたが、市のレッドリストに掲載しているドンコは1個体のみと、本河川では少ない状況でした。



調査場所



オジロサナエ(幼虫)

＜北部河川 8＞ 調査日：2025 年 12 月 28 日 確認種：97 種

ここの河口一帯は国、県、市のレッドリスト掲載種が市内でも多い場所となっています。中でも貝類の種数が多く、ヒメカノコやイボウミニナなどは比較的多くの個体が確認され、これらの種にとって健全な状態が維持されていると思われます。



調査場所



チクゼンハゼ



ハマグリ

＜北部河川 9＞ 調査日：2025 年 12 月 29 日 確認種：84 種

本河川の河口一帯で調査を行いました。この川での主な初記録は、ホソコオロギ(死殻)、タケノコカワニナ(死殻)、ナラビオカミミガイ(死殻)、ムラサキガイ(死殻)、ユキガイ(死殻)などで、これらは市のレッドリスト掲載種となります。一方で、河口で以前確認していたチクゼンハゼを今回確認できていません。汽水域～下流域で河川改修工事が行われており、その影響が懸念されます。



調査場所



ヒロクチカノコ(近似種?)



イボウミニナ

＜北部河川 10＞ 調査日：2025 年 12 月 29 日 確認種：56 種

河口部付近～汽水域の調査を実施しています。コゲツノブエ、ホソコオロギ(死殻)、ヘナ

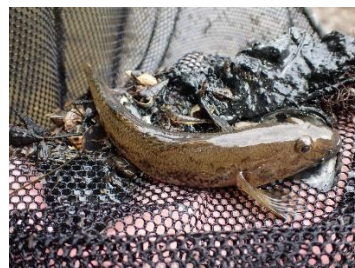
タリ、イオウハマグリ(死殻)、ハザクラ(死殻)、チゴイワガニなどレッドリスト掲載種を確認できています。



調査場所



シマイサキ



マハゼ

○その他の調査

＜北部海岸1＞ 調査日：2025年1月5日 確認種：143種（令和6年度分）

打上貝と海浜性昆虫類の調査を実施しました。外海性の転石・岩礁帯にみられる貝類が多く、周辺海域の状況を反映している結果でした。昆虫類では、石の下で越冬中のハマベオオヒメサビキコリが確認でき、健全な状態が維持されているようです。この他、オチバアナキゾウムシを再確認できています。



調査場所



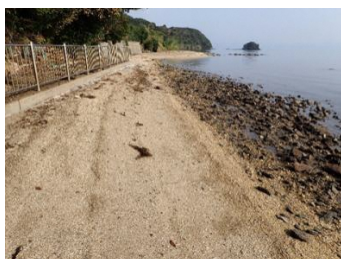
スズメガイ(死殻)



ハマベオオヒメサビキコリ

＜北部海岸2＞ 調査日：2025年11月25日 確認種：82種

市内ではここだけで確認されている、海浜性昆虫の確認と打上貝類の調査を実施しました。海浜性昆虫は今回潮位もあり確認できていません。打上貝では、ケマンガイ、オニアサリ、ウチムラサキなどの二枚貝を中心に確認できています。



調査場所



ガンギハマグリ(死殻)

<北部海岸3> 調査日：2025年11月30日 確認種：110種

ゴルフ場横にある以前造成された砂浜海岸で、主に打上貝等の調査を実施しました。以前に比べ環境が安定しているためかホソコオロギ、ユキガイなど希少な貝類の打上を確認できています。また確認した種類数も増えているようでした。時期的なものもあるが、市内で確認されている数少ない希少魚類生息地(2箇所)のうちの一つで、今回採集を試みましたが残念ながら確認できていません。



調査場所



バカガイ(死殻)

<野島・無人島調査> 調査日：2025年11月15日 確認種：198種

野島東側にある砂浜において、打上貝および海浜性昆虫類の調査を実施しました。これまでの調査とは時期が異なるため、単純には比較できませんが、概ね海浜部の環境および出現種に大きな変化はないようです。打上貝では、外海に面していることもあって、多くの種が確認されましたが、なかでも岩礁や転石を好む種が多い状況でした。昆虫類では、今年川原大池で確認されたケシツブスナサビキコリが野島でも確認され、市内2箇所目の生息地となっています。



野島の砂浜



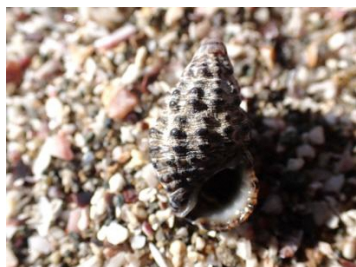
アサテンガイ



キヨコカメガイ



キンシバイ



カヤノミカニモリ



ケシツブスナサビキコリ

○さいごに

本調査にあたり、長崎市南部総合事務所地域整備課、長崎市土木部土木総務課、長崎市教育委員会、長崎市日吉自然の家スタッフの皆様には調査のご配慮を賜った。また、現地調査にご協力いただいた田中 清氏（長崎市自然環境調査委員）に厚く御礼申し上げます。